

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 25 年度

事業所番号	2791600071		
法人名	社会福祉法人 和貴会		
事業所名	グループホームスローライフ千里		
所在地	大阪府吹田市千里万博公園6-8		
自己評価作成日	平成 26年 2月 10日	評価結果市町村受理日	平成 26年 4月 24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&leiyosyoCd=2791600071-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 26年 3月 14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

万博公園が隣接した緑多い環境の中にあります。同じ建物の中には、特別養護老人ホームや小規模多機能型居宅介護、認知症対応型デイサービス等の6つの事業所があり、地域でお困りの方、又は入居者様及びご家族の皆様のご相談事に臨機応変に対応できるよう、各事業所の壁を越えて連携した支援に取り組んでいます。フロアは、広々とした開放的な空間を有しており、入居者様は各々の落ち着ける場所で談笑したり、ゆったりと過ごしている外、洗濯物を干したり、たたんだり、キッチンの洗い物をして下さったりと、ご自分で出来ることに取り組んで下さっています。そしてスタッフ達は、毎日夕を精一杯生き抜いて下さっている入居者様達が困らないように、そっと手を添え、又は、一緒に大笑いしながらサポートしています。かかりつけ医は、24時間ご家族や私達の相談に乗って下さり、入居者様はしっかりとした医療を背景に安心した生活を送ってられます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

老人保健施設運営を含め府県を越えて事業を展開し、地域に貢献している社会福祉法人が運営する2ユニットのグループホームです。当ホームは地域密着型特別養護老人ホームや小規模多機能型事業所等を併設しています。大規模な公園の横に建てられ、食堂兼談話室からは景観も良く、利用者の手作り作品やカレンダー、時計等を見やすい場所に配置し、家庭的な雰囲気作りをしています。談話室にはソファやイスを配置し、利用者は新聞等を読みながらゆっくりと過ごしています。2ユニットが1フロアに配置されており、利用者はユニット間を自由に行き来することができます。保育園児との交流、地域ボランティアや介護相談員の導入等、外部の協力を積極的に要請し、地域交流を進めています。法人厨房で作る食事は利用者により好評で、選択食やバイキングメニューも取り入れられています。24時間医療連携支援を行い、利用者の体調に配慮しながら看取り支援もしています。管理者は熱心で職員の育成にも力を入れており、法人のバックアップもあることから、今後もさらにサービスの向上が期待できるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念「日々宣誓」と共に、「私達がしたい介護」として事業所独自の理念をスタッフルームに掲げ、職員間で共有しています。	法人の基本理念「日々宣誓」に添って、ホーム独自の理念を定めています。理念には「私達がしたい介護」として「①おいしい食事・心地よい睡眠・気持ち良い排泄のある日常を守ります。②健康でいられるようにどんな小さなサインも見逃しません。③想像力と行動力を持ち続け自立を支えます。④地域の一員として暮らすためのかけ橋になるよう努めます。⑥未熟な自己に磨きをかけ常に学ぶ姿勢を持ち続けます。」と表記し、ホーム内に掲示して実践につなげています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の保育園児と焼芋をしたり、クリスマス会にお誘いしたりと交流しています。回想法や音楽会、傾聴、銭太鼓、又、パステルアートが新しく始まり、入居者様はボランティアとの交流を楽しみにしています。介護サポーター制度の活用も行っています。	利用者は、地域の保育園児と焼き芋大会に参加したり、ホームのクリスマス会に招待して交流を楽しんだりしています。地域ボランティアの協力を得て、音楽会や銭太鼓を觀賞したり、利用者の話を傾聴してもらったり、回想法に取り組んだり、パステルアートを始めたりしています。管理者は、認知症サポーター養成講座にキャラバンメイトとして参加したり、地域福祉連絡会に出向いて「親子で車椅子体験」等に取り組んだりしています。また、地域にあるマンション自治会主催の福祉研修会に講師で招かれ、その研修で育成した介護サポーターがボランティアとしてホームに来訪するなど、効果的な展開もみられます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>運営推進会議において、ホームの取り組み等について事例を用いて報告し、支援の方法を発信しています。又、管理者は認知サポーター養成講座にキャラバンメイトとして参加しています。北千里福祉連絡会に参加し、今年は「親子で車椅子体験」の準備に取り組んでいます。地域のマンションの自治会が主催した福祉研修会に講師で呼ばれ、協力をさせていただきました。その参加者が介護サポーターとしてボランティアに来て頂いています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2か月に1回開催しています。会議議事録を施設ご利用の全てのご家族様に送付するようになってから、他事業所をご利用のご家族様も参加下さるようになり、スローライフ千里全体の向上に向けた意見交換が行われています。</p>	<p>運営推進会議は規則を定め、2か月に1回、年6回の定期開催をしています。最近の会議では、利用者・家族、地域代表、地域福祉委員、介護相談員、市社会福祉協議会職員、地域包括支援センター職員等が出席して、活発な意見交換をしています。ホームからは行事計画や外出行事等の報告、利用者のエピソード等を説明しています。議題では業務改善、事故防止、地域連携、地域徘徊模擬訓練、災害時の備蓄、職員の退職や負担軽減等について話し合っています。出された意見や要望については、ホーム運営に活かしています。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>管理者は吹田市グループホーム・特定施設部会に参加し、市担当者や管理者達と積極的な意見交換を行い、協力関係を築いています。又、地域ケア会議に参加し、ホームでの取り組みを発信しています。</p>	<p>開設当初から行政との連携を重視して運営を進めています。日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用している利用者もあり、個別支援についても相談しながら進めています。管理者は、グループホーム特定施設部会や地域ケア会議に参加し、市担当者と情報交換や取り組みについての交流をしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束廃止委員会に参加し、日頃のケアの振り返り、拘束しないケアに取り組んでいます。1階に通じるエレベーターは電子ロックで施錠していますが、操作盤の上に暗証番号を表示しています。エレベーター前で扉が開くのを待っている入居者様がいらしたら、そのまま外へ出掛けるようにしています。</p>	<p>運営規程に「身体的拘束その他の行動制限」についての方針を明記しています。職員は身体拘束廃止委員会に参加し、「拘束のないケア」に取り組んでいます。1階に通じるエレベーターは電子ロックで施錠していますが、操作盤の上に暗証番号を表示して活用できるようにしています。しかし、利用者は暗証番号を活用できていない状況です。エレベーター前で扉が開くのを待っている利用者については、心理的な負担をかけないように、そのまま職員が付き添い、外へ出掛けるようにしています。総合玄関やエレベーターの上りは開錠しています。エレベーターの施錠は全館同じ対応で、部分解除は困難な状況です。</p>	<p>下りエレベーターの施錠については、施設全体で話し合い、「鍵をかけないケア」について、さらに取り組むことが望まれます。</p>
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>全スタッフに対して「高齢者虐待防止と権利擁護」の閲覧研修を実施し、意識付けしています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用している入居者様達から学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	インテークや契約締結時に、不安や疑問を尋ね、事務長及び管理者は丁寧な説明に心掛け、入居者様やご家族の理解と納得を得ています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付箱をホーム内に設置しています。又、市の介護相談員を受け入れ、外部者に要望を表せる機会も作っています。ご家族からの苦情に値する要望は「苦情受付・経過記録書」を用いてスタッフに周知、検討を行い、解決策を実施しています。	職員は日常的に利用者・家族の意向を確認しながらケアを進めています。運営推進会議で出された利用者・家族の意見や要望についてはホーム運営に活かしています。ホーム内に苦情受付箱を設置し、意見を出しやすいように配慮しています。家族からの要望や意見については、「苦情受付・経過記録書」を用いて職員間で共有し、速やかに対応しています。市の介護相談員の来訪を依頼して、第三者に要望を表せる機会を設けています。毎月「グループホームスローライフ千里便り」を発行し、利用者の様子や写真、月間予定を記載して家族に送付しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度フロア会議を開催し、職員の意見や提案を業務改善やケアの見直しに反映させています。又、管理者は、4月に人事考課票を基に個人面談を行い、7月には「ここが出来ていない」「気になるな」と思うことを全スタッフから提出してもらい、スタッフ間の風通しを良くし、士気向上に繋げています。	管理者は、日常業務の中で職員と対話し、意見や提案を汲み取るよう努めています。毎月開催しているフロア会議で出された意見や提案についても、業務の見直しや改善に活かしています。管理者は職員との個人面談を行い、職員から業務についての改善点や気になる点を出してもらい、全体の課題として取り組めるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>毎年4月、スタッフ個々の評価に基づいて昇給を行っています。又、介護福祉士、基礎研修修了者等の資格手当を見直し、引き上げています。</p> <p>法人全体の新年会にて、功績のあった職員を表彰しています。また、資格取得者や5年・10年勤続者への表彰も行っています。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>リーダーは実践者研修を受けています。又、外部から認知症介護指導者を招いて「認知症の理解」として研修を行い、職員育成に努めています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は、吹田市グループホーム・特定施設部会に参加し、吹田市介護フェアに取り組むことで、同業者と積極的な交流を行っています。又、同会において勉強会が行われ、サービスの質の向上に取り組んでいます。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前にはご本人の面接を行っています。又、利用していた事業所関係者からもアセスメントを行い、安心してご入居出来るように努めています。ご家族にセンター方式 B-2、B-3を記載して頂き、寄り良い関係づくりに役立っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	じっくりとお話を伺う時間を設けています。又、ご家族の意向や希望は「ご家族様との連絡簿」に記録し、スタッフ間で周知し、対応することで、より良い関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランの第1の課題に設定し、支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることを見出し、お互いに役割を持った生活が営めるよう、ケアプランにも設定し支援しています。「ありがとうございます」と感謝の言葉をお互いに掛け合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランの見直しは、ご家族と共に行っています。又、必要な日用品等は、出来るだけご家族に持参して頂けるよう連絡を取っています。いつもと違う様子が見られたら連絡させて頂き、時には協力を得ています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	4月には個別ケア計画報告書を用いて、有料老人ホームにお住まいのお兄様を訪ねました。法事への参加やご家族主催の誕生日会への出席を実現するために、協力しています。	利用者一人ひとりの願いを実現する取り組みとして、個別ケア計画報告書を作成し、離れて暮らしている家族等を訪ねたり、法事へ参加したりする際の支援をしています。利用者が希望される場合には、電話や手紙のやり取り、年賀状を送る際の支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席は、利用者同士の関係性に合わせて設定しています。又、引きこもりがちな入居者様には、ケアプランの課題に設定し、孤立しない支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ボランティアに来て下さったり、音楽会を開催して下さったりと、サービスが終了しても関係を継続して下さっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様やご家族様から得た希望や意向は、「暮らしの希望・意向」用紙に記録し、出来る限り実現できるよう努めています。	日常生活での意向や希望については、その都度利用者に確認して意向に添った支援をしています。言葉で意向を聞き取りにくい場合には、表情や仕草で理解するようにしています。「暮らしの希望・意向」用紙に、確認した内容を記録し、職員間で共有して支援に活かしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご家族からセンター方式 B-2、B-3の情報を頂き、これまでの暮らしの把握に努めています。又、入居後に得た馴染みの暮らし方や生活環境等については「ご家族様との連絡簿」に記載して、スタッフに周知しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケースファイル記録を用いて把握しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>居室担当スタッフは毎月モニタリングを行い、そのモニタリングをご家族に報告し、ケアプランを作成しています。又、必要に応じてカンファレンスを行い、ご家族の同意の元、ケアプランに反映させています。かかりつけ医、リハビリ事業所等の専門職とも連携しています。</p>	<p>各居室担当者を中心として、利用者・家族の意向を確認し、ケアプランを作成しています。居室担当者は毎月モニタリングを行い、モニタリング結果を家族に報告して意見等を確認し、ケアプランに活かしています。カンファレンスには必要に応じて家族の参加を得ています。医師や看護師、リハビリ等の専門職とも連携して検討を行い、利用者本位の計画書を作成しています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケースファイルに記録し、情報を共有しています。その中での気づきや工夫は、ケースカンファレンスとして特別に取り上げ、ケアプランに反映させています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>「暮らしの希望・意向」「ご家族との連絡簿」を用いて、その時々得たニーズに対して、柔軟に対応しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の神社のお祭りや初詣に出掛けたり、花火大会も楽しんでいます。四季折々に万博公園も活用しています。散歩に出掛け、アドプトロードの花壇でお花を摘むことを楽しみにしている入居者様もいらっしゃいます。 吹田社協の取り組みに積極的に参加しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と利用者の同意を得て、24時間医療連携しているかかりつけ医の定期的な訪問診療を受けています。他科受診が必要と判断した時は、かかりつけ医の紹介を受け、ご家族の同意を得たうえで管理者が通院介助を提供したり、ご家族に同行を依頼しています。ご家族がどうしても同行出来ない定期受診に関しては管理者が付き添っています。	家族と利用者の希望に添って24時間365日の医療連携支援をしています。希望があれば、毎週1回内科・歯科の往診が受けられます。また、月1回の眼科医による往診もあります。専門医やその他の科への受診については、家族の同行を依頼しています。しかし、家族の都合がつかない場合等には、職員が付き添って受診を支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケースファイルを開示し、看護職と連携しています。又、「看護師さんとの連絡簿」を用いて、看護職が行った処置等の情報をスタッフ間で共有し、時に指導も受けています。適切な診察が受けられるよう、往診時の情報を看護師に提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には、かかりつけ医から診療情報提供書を提出し、当所ではサマリーを作成し、情報提供に努めています。必要時には、かかりつけ医に入院先への連絡を依頼し、早期退院へ向けて調整して頂いています。病院主催の研修や検討会に参加し、関係作りにも努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りに関する指針」を用いて、終末期ケアの考え方やあり方について十分に話し合いを行い、ご家族、かかりつけ医とその方針について共有し、取り組んでいます。	「看取りに関する指針」を作成し、利用開始時に終末期支援についての説明を行っています。重度化した場合には、家族の意向を再度確認して具体的な支援計画を作成し、終末期ケアを進めています。必要時には家族、医師、看護師と連携した取り組みを行い、24時間医療連携支援を行っています。ホームでは、実際に看取りをした経験があります。	管理者は新入職員への実践研修として、緊急時の対応について演習を行う予定にしています。今後、取り組みの成果が期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「転倒・転落対応マニュアル」「緊急対応マニュアル<<日中の場合>><<夜間の場合>>」等の応急処置マニュアルをスタッフルームに掲げ、速やかに実施できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備えるマニュアルを作成し、年2回の避難訓練を実施しています。本年度は各フロア合同での火災避難訓練に取り組み、入居者様一人々に非常階段を使って避難場所まで避難するなどより実際的な訓練を行いました。又、水、食料の備蓄も完備しています。	「災害に備えるマニュアル」を作成して非常時対策本部を立ち上げ、消防署と連携して年に2回の建物合同消防防災避難訓練を行っています。訓練当日は、消防署員立ち会いのもと、災害発生時の通報・避難・消火訓練を行っています。施設長は東日本大震災の被災地へ行き、現地の状況を学び、マニュアル作りや避難訓練等に活かしています。利用者も職員と共にベランダへの避難や階段を下りて外へ出るなどの訓練に参加し、記録を残しています。備蓄については5カ年計画で完了するよう取り組んでいます。現在は5階に建物合同の備蓄を行い、リストで管理しています。平成25年度は市自治会連絡協議会合同防災訓練に参加し、地域連携にも取り組んでいます。	備蓄については、5カ年計画に添って、利用者数に合わせた数量等を充足するよう取り組んでいます。今後、取り組みの成果が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの利用者に合わせた、分かりやすい丁寧な言葉掛けに心掛けています。1階にはマザーテレサの「言葉は運命になる」を掲げ、職員の意識向上に努めています。	利用者一人ひとりの好みや意向に添った支援をしています。利用者を人生の先輩として尊重し、分かりやすく丁寧な言葉かけをしています。マザーテレサの名言「思考は言葉になり・・・行動になり・・・習慣になり・・・性格になり・・・運命になる」を掲示し、職員の意識向上に努めています。管理者は、運営規程に「秘密の保持」について明記し、職員には個人情報保護についての義務があることや、職員が退職した後にも守秘義務があること等、入職時の契約事項としています。	管理者は職員が「一人ひとりの尊重とプライバシーの確保」等について、自らの点検ができるように自己点検シートを作成し、それを活用して勉強会や振り返りの機会を設ける予定にしています。今後、取り組みの成果が期待されます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「暮らしの希望・意向」に記録し、実現できるよう取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調に合わせた対応や、利用者一人ひとりがしたいこと、好きなこと等を、その時々に合わせて、柔軟に対応できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分でおしゃれを楽しむことができる方には、入浴後の衣類をご自分で選んで頂いています。選ぶことの困難な入居者様には、ご家族が着せてあげ欲しいと持参して下さった衣類等を提供しています。毛染めの提供もしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じて流しそうめんや餅つきをしています。麺類等の時は、皆でおにぎり作りをして楽しんだり、おやつレクとしてクレープ作りもしています。その時の準備は入居者様と一緒に取り組んでいます。施設の取り組みとしてバイキングが行われ、ご家族と一緒に楽しんでいます。	同建物の1階に法人厨房があり、管理栄養士が献立をした食事が作られています。作られた食事は配膳をしてホームに運び、利用者にそのまま提供しています。ご飯はホームで盛り付け、おかわりも自由です。利用者は配膳を担当しており、「〇〇様」と利用者の名札を読み上げながら食卓へ運んだり、片付けをしたりして力を発揮しています。また、利用者の希望に添って、おやつ作りをしたり、レストラン等へ外食に出かけたりしています。また、施設全体の取り組みとして選択食やバイキングメニューが提供され、利用者は好みの物を選んで楽しんでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご飯の盛り付けは、ご本人にして頂いています。水分は、制限がある方以外は1日1500cc以上を目標に、様々な飲料水を用意して楽しんで飲用して頂けるよう工夫しています。食事量が少ない方には、ご家族と協力しながら好物を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを実施しています。歯科医、歯科衛生士の指導の元、口腔内の状態に合わせたケア方法を提供しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケースカンファレンスを開催し、排泄ケアに取り組んでいます。必要に応じてケアプランの課題に設定し、統一した対応を提供することで、トイレでの排泄、清潔保持に努めています。又、過剰なトイレ誘導がないように、その人に合わせた排泄パターンの把握にも取り組んでいます。	職員は一人ひとりの排泄状況を確認し、カンファレンスを行いケアプランの課題を設定しています。職員間で課題を共有し、利用者に統一した対応を行うことで、より快適な排泄ができるよう取り組んでいます。また、利用者の自立に向けた取り組みとして、トイレでの排泄を支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日1500CC以上の水分補給に取り組んでいます。便秘が目立つ入居者様には、便秘解消をケアプランに掲げ、取り組んでいます。又、かかりつけ医と連携し、下剤を調整しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日はほぼ決まっていますが、希望があればその時に入浴して頂いています。施設内にある大浴場も利用し、入浴を楽しんでいます。	週2～3回入浴できるように支援しています。希望があれば、予定以外の日でも入浴することはできます。入浴を好まない場合もありますが、時間を置いて入浴を勧めたり、担当者を変えて誘ったりする等、無理のない支援をしています。複合施設の最上階にある展望浴場は、一面ガラス張りで眺めが良く、温泉気分を味わうこともでき、希望があれば出かけて入浴を楽しんでもらっています。ゆず湯等、季節に合わせて用意し、利用者に喜ばれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの体調に合わせて休息しています。起床も、個人に合わせた時間に対応しています。又、ご家族がご持参下さった馴染みの枕や布団を使用している入居者様もいらっしゃいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は個人ファイルに綴じ、スタッフがいつでも閲覧できるようにしています。又、薬の変更に伴う注意点や副作用に関する情報は訪問薬局から指導を受け、申し送りノートに記録し、スタッフ間で周知し、観察を強化しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式 B-2、B-3で得た情報、サービス担当者会議においてご家族から得た情報を基に、利用者個々の生活に合わせた余暇の過ごし方に取り組んでいます。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々の外出を楽しんでいます。「暮らしの希望・意向」で得た情報に関しても、実現出来るよう取り組んでいます。又、ご家族との外出や一時帰宅の支援も行い、必要な時は介護タクシーも利用しています。	日常的な外出支援では、近くを散歩したり、買物や外出に出かけたり、幼稚園を訪問したりしています。季節の良い時期には出かけることも多くありますが、猛暑や寒冷の時期には出かけることが少ない状況です。年間行事として、春は花見、秋は紅葉見物等に出かけます。利用者の希望に添って、個別の外出支援にも取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持することで安心される方には、紛失の可能性を了承頂いた上で身に付けて頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望時には電話をしたり、手紙のやり取りをしています。年賀状を送る支援もしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の行事に合わせて、玄関やリビングを飾り、季節感のある空間作りに配慮しています。「食事を楽しむ所」「談話を楽しむ所」「音楽鑑賞する所」等、用途に合わせて寛げるよう工夫しています。	ホームは2階にあり、すぐ近くに緑豊かな公園を眺めることができます。食堂兼談話・機能訓練室は広く落ち着いた雰囲気があり、利用者の手作り作品やカレンダー、時計等は見やすい場所に掛けています。2ユニットが1フロアに配置されており、利用者はユニット間を自由に行き来することができます。それぞれの談話室にはソファやイスを配置し、利用者は食後に新聞等を読みながらゆっくりと過ごしています。トイレは、車いす対応型等も設置し、利用者が活用しやすいよう、表示等を工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりに合った居場所や寛げる空間作りを常に検討し、模様替えを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご自宅訪問を行い、出来るだけ馴染みの物を持って来て頂けるよう、お願いしています。又、ご家族が寛ぐために、ご家族用のソファを搬入した居室もあります。	居室には備え付けのタンスやベッドがあり、利用者はイスや鏡台、祭壇、テレビ、時計等を持ち込み、絵画や写真を飾って自分らしい部屋にしています。職員は入居時に利用者の自宅訪問を行い、馴染みの家具等を持参するよう勧めています。居室担当職員は、利用者と共に室内を整理し、清掃して、利用者が過ごしやすいように支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには「トイレ」と分かりやすく表示しています。スタッフは「できること」「わかること」の観察に努め、工夫した対応をすることで「できるようになった」ことをケースファイルに記録し、楽しく自立した生活が送れるよう努めています。		